

論文要旨

I.研究目的

本研究では、看護における概念基盤型学習(以下 CBL)と概念基盤型カリキュラム (以下 CBC) の現状とその効果について文献検討を行い、我が国の看護教育での活用可能性について検討することである。

II.研究の方法

看護における概念基盤型学習に関する論文を医学中央雑誌 WEB 版、PubMed, CINAHL Plus With full text ,EMBASE を用いて検索した。キーワードは、concept based learning または concept based teaching, Concept-based curriculum,とした。

III.結果

CBL、CBC に関連した 33 文献とハンドサーチで得た国内の CBL、CBC 関連の 5 文献と海外書籍 4 誌の合計 42 文献を対象とした。従来の医学モデルをベースにした看護カリキュラムに対する教授内容の過多や重複、学生の知識の断片化などの問題に対して、教授内容を整理し、スリム化することを目的として、看護独自の概念を特定した CBL、CBC への移行が図られた。そして、CBL や CBC で学ぶことは、看護実践の基礎である概念に焦点を当てるため、既習の学習を概念的に意味づけし、その成果として情報を吟味するような思考の発達を促す、臨床判断能力の発展にも繋がっていくという特徴を持っていることが示された。また、学習の成果は NCLEX-RN (米国看護師資格試験) の合格率、卒業率、退学率、臨床判断能力や批判的思考への影響、学生や教員の満足度など様々な側面で評価されている。一方で、CBL、CBC の導入には、時間を要することや教員の教授力を育成する必要があるなどの課題も示されている。

IV.結論

CBL と CBC の現状とその効果について文献検討を行った。多くの文献が米国のものであり、米国でも看護学生が、社会背景や国民のニーズに対応できる看護専門職としての成長を遂げるためのカリキュラムや教育プログラムの開発が行われており、CBL、CBC は効果のある学習方法であることがわかった。我が国でも、看護基礎教育養成課程の学習内容の過密化や看護基礎教育側と臨床実践能力の高さを求める臨床側とに大きなギャップがあることが課題とされている。また、患者の高齢化や疾病の複雑化等から高度技術化した臨床においては、患者の変化にいち早く気づき、安全に対応できるような優れた臨床判断能力や看護実践力が求められている。本研究でまとめた内容を根拠の一つとして、CBL や CBC を我が国の教育支援として活用することは、教育的課題や国民のニーズに対応した看護専門職を育成する一助になると考える。しかし、各国の社会情勢や看護基礎教育の置かれている状況が我が国とは異なることから、今回の文献検討により得た知見がそのまま我が国で適用できるかどうかについてはさらに考察する必要がある。